

〔 横浜市芸能センター（横浜にぎわい座） 〕
 令和4年度業務報告及び収支決算
 〔 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 〕

※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所在地	横浜市中区野毛町 3-110-1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階地上13階建の地下2階から地上4階及び地上5階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 4,358.97 m ²
開館日	平成14年4月13日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地
代表者	理事長 近藤誠一
設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	令和4年4月1日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針

大衆芸能は日常生活の中で、人々の心の拠り所となる親しみやすさを持ち、生きる活力を生み出す原動力にもなっています。また、落語、講談、浪曲からは、人々は敬い、助け合うことが大切であり、一人では解決できないことも打開する知恵を授かることができるといった教を学べます。

第4期指定管理期間では、常打公演「にぎわい寄席」「企画公演」を中核に据えた事業展開を継続しながら、大衆芸能の広い芸種の普及、社会包摂の取り組み、地域との連携等の事業を強化し、より公共施設としての役割を意識した運営に注力しました。

【基本方針】

大衆芸能の魅力を広め、地域の賑わいと人々の交流を促し、豊かな人間性を育む演芸場を目指しました。

- 方針1 魅力あふれる多彩な公演を主催し、だれもが気軽に大衆芸能を楽しめる演芸場
- 方針2 ベテランから若手までが芸を磨く道場であり、晴れ舞台でもある演芸場
- 方針3 横浜の劇場街の賑わいを現代に創出し、人々の交流を生み出す演芸場
- 方針4 専門館としてのブランド力による安定的で持続可能な演芸場の運営

(2) 令和4年度の業務の方針

ア 全体について

令和4年度は、第四期指定管理期間の初年度として、掲げた基本方針を目標に、コロナ禍であっても開館20周年記念事業を中心に経常公演全体を安定的に実施し、社会の大衆芸能への関心の高まりを観客創造につなげ、日本の伝統文化や古典芸能への入り口としての役割を果たしました。また、寄席体験や学校等へのアウトリーチ、若手演者の育成、野毛地区との連携など、さまざまな取り組みを進め、私たちに求められる多様な役割を果たしました。

イ 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

開館20周年事業を中心にさまざまな形態の公演を催すことによって、幅広い世代やさまざまな市民層に大衆芸能への関心と理解を高める場としました。

ウ 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

さまざまな切り口のプログラムを実施することで、大衆芸能を中心とした文化芸術活動の創作や体験等の場を提供しました。

エ 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

若手演者の育成に取り組むとともに、子どもに向けた鑑賞の機会を設け、次世代を担う人材の育成に取り組みました。

オ 使命4 地域のにぎわいを創出する

地域の多様な団体等と連携して、地域のにぎわいづくりに貢献しました。

カ 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

市内唯一の大衆芸能の拠点として親しまれる施設となるよう、あらゆる人たちを受け入れました。

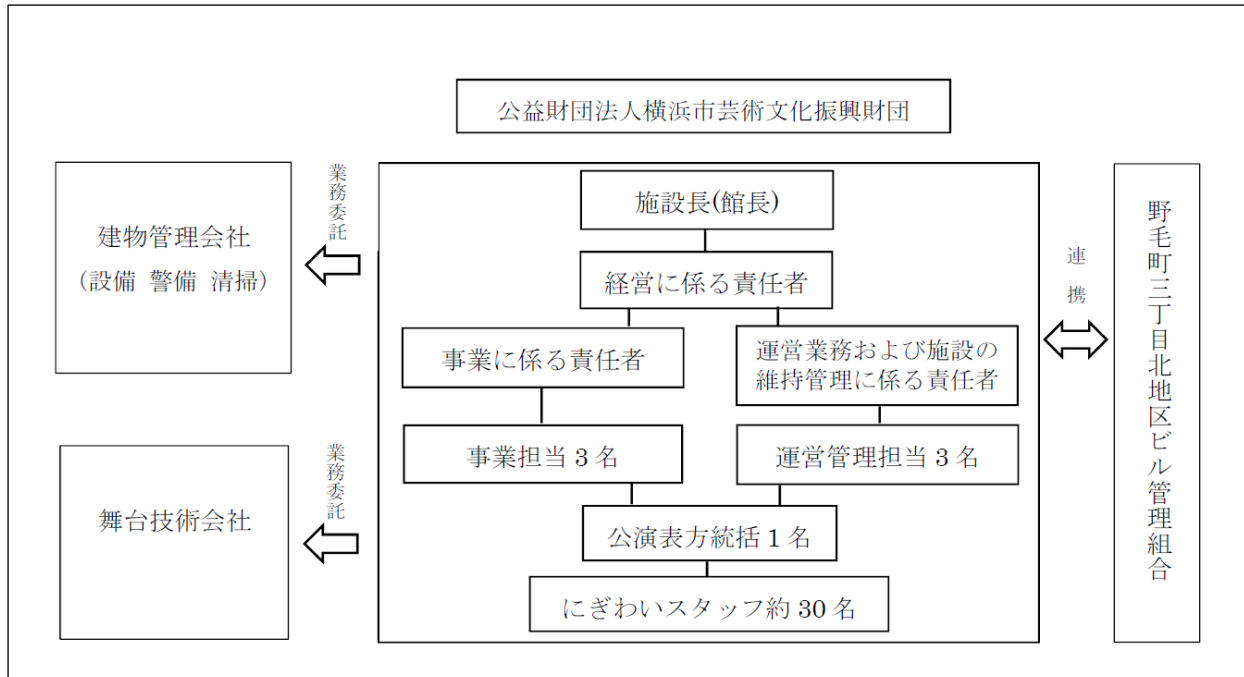
キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

施設運営の持続可能性を高めるため、中長期的な視点で総合的な施設の維持管理を行いました。

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するとともに、来館者の安全、安心を第一に配慮した施設運営を行いました。

4 運営組織の構造、人員配置



職員	雇用形態	1日の勤務時間	休日設定
館長(施設長)	職員	7時間45分(シフト制/休憩1時間) ※基本シフト：早番 9:30～18:15 遅番 13:15～22:00 ※その他、業務に応じて複数の勤務時間体系から選択可能 (職員就業規定に基づく)	月ごとに土日祝日に相当する日数を公休日として指定。業務に応じたシフト制(不定休)。
経営に係る責任者	職員		
事業に係る責任者	職員		
運営業務および施設の維持管理に係る責任者	職員		
事業担当①	職員		
事業担当②	職員		
事業担当③	職員		
運営管理担当①	職員		
運営管理担当②	職員		
運営管理担当③	臨時雇用職員		
公演表方統括	臨時雇用職員	4時間10分(シフト制/月15日前後)	週3～4日
にぎわいスタッフ	臨時雇用職員		

大衆芸能に関する高度な知識、演芸界や野毛地域をはじめとする幅広い人脈、劇場運営や安全管理等に対する高い見識などを併せ持つ館長を施設長として配置し、総合的な視点から大衆芸能の専門館に相応しい施設マネジメントを行いました。また経営に関する責任者として、文化施設における豊富な運営経験やノウハウを持つ職員を配置し、館長のマネジメントを支えました。

事業に係る責任者として芸術文化事業の企画制作や広報の業務に豊かな経験を有する職員を配置し館長の方針を主催事業に反映させました。運営業務ならびに施設の維持管理に係る責任者として施設運営や維持管理に長年の勤務実績を有する職員を配置しました。

設備管理、清掃、警備、舞台技術の各業務についてはそれぞれの業務に高い専門性を有する会社に業務委託し、業務の履行状況を適切に管理しました。

5 令和4年度の業務の取組

(1) 文化事業

主に大衆芸能に親しむ入り口としての「横浜にぎわい寄席」、高度な実力を持つさまざまな演者の魅力をとおして大衆芸能を深く理解する各種独演会など、公演毎の機能を明確にし、毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催しました。特に20周年記念公演として「野毛名物の落語会」や、立川志の輔、柳家喬太郎を始めとしたえりすぐりの出演者による記念公演を華やかに開催しました。また、好評を博している野球、鉄道、キャンプなどの「趣味をテーマの演芸会」を時節にあわせて開催しました。さらに、子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成を推進するとともに、野毛大道芸の開催など地元野毛地区をはじめとして地域の多様な団体等と連携し、まちのにぎわいの創出にも寄与しました。

(2) 施設運営

利用者、来館者の声に耳を傾けながら、高度かつ専門的なノウハウを発揮する組織的な施設運営を行い、引き続き安心・安全に施設を利用できるよう万全を期しました。コロナ禍の中、演芸ホールとしての専門特性を広く周知するとともに、大衆芸能公演の開催ノウハウを施設利用者に提供し、プロの演芸家や団体が開催する公演の利用を促し、主催公演のラインナップとの相乗効果をはかりました。

(3) 施設管理

施設の状態を常に良好に保ち、安全かつ快適に利用することができるように適切な管理を行いました。コロナウイルス感染症対策についてもガイドラインの動向に寄り添いながら、これまで培ってきた知見を最大限活用して実施しました。施設及び設備の維持保全及び修繕については、利用者、来館者が安全かつ快適に利用できるように適宜適切に取り組むとともに、大きな修繕については、横浜市と十分協議を進めながら施設及び設備の長寿命化の視点で計画立案しました。

(4) 収支

コロナ禍の中、新規鑑賞者や団体鑑賞者に向けたチケット販売促進や、プロの演芸家や主催団体との共催事業の誘致による稼働率の向上に積極的に取り組むなど事業収入、利用料収入の確保を重点的に取組めます。また公益性の高い事業においては積極的に助成制度を活用し財源確保に努めました。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

日報、月報の作成・管理を重点的に取組みました。

(6) その他

高度かつ専門的なノウハウの発揮と、市民サービスの向上を、横浜にぎわい座の特性を踏まえて共に発揮するため、市及び関係機関等との連絡調整を重点的に取組みました。

※ 5 (1) ～ (6) の具体的な取組内容や実施状況は、指定管理業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 大衆芸能と市民をつなげる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績	
1	鑑賞型事業のメ ニューのジャン ル数、実施回数 及び入場者数	ジャンル数	25	25	—	—	—	25	—
		実施回数	227回	200回	—	—	—	200回	—
		入場者数	31,962 人	35,000 人	—	—	—	50,000 人	—
2	展示型事業の実施回数	9回	8回	—	—	—	8回	—	
3	来場者(参加者)満足度(アン ケート集計)	4.4	4.2	—	—	—	4.5	—	
4 ★	票券システム、ゲッティの 会員数	26,019 人	25,000 人	—	—	—	29,000 人	—	
5 ★	横浜にぎわい寄席の初来館者 の割合	85/1,074 7.9%	40%	—	—	—	50%	—	

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	鑑賞型事 業及び展 示型事業 の参加者 の声	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への 要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	アンケートに楽しんだ旨の感想が寄せられる
		R 8 実績	—
2 ★	広報媒体 に寄せら れた感想 や意見	R 4 実績	アンケート等への要望に迅速に対応した
		R 5 達成指標	アンケート等への 要望に迅速に対応できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	自主公演を他者に薦める感想が散見される
		R 8 実績	—

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

- ・4月興行、5月興行を中心に20周年記念公演として野毛名物の落語会やこれまで当館とかわりの深い選りすぐりの出演者による公演を華やかに開催しました。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「1 大衆芸能に係る公演の企画・実施と情報の収集・提供」に記載の取組を行いました。

(2) 使命2 大衆芸能をはじめとした文化芸術活動と体験の場となる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	総来場者数	76,669 人	75,000 人	—	—	—	110,000 人	—
2	貸館利用率	芸能ホール	74%	75%	—	—	80%	—
		小ホール	48%	60%	—	—	70%	—
3	体験型事業のジャンル数及び実施回数	ジャンル数	4	4	—	—	4	—
		実施回数	15	25	—	—	25	—
4 ★	公演誘致数	2	5	—	—	—	10	—
5 ★	利用者施設見学	37	10	—	—	—	30	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握	R 4 実績	貸出室場の利用者にアンケートを実施した
		R 5 達成指標	—
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	対応が必要と判断される要望に対し迅速に行動できている
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

・寄席文字ワークショップなど各種体験型ワークショップ等を開催し、また経常公演前後の寄席囲を使用したホールの活用に取り組みました。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅰ文化事業」「2 大衆芸能の体験の場の提供」及び「Ⅱ施設運営」「1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供」に記載の取組を行いました。

(3) 使命3 大衆芸能を担う人材を育む

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	若手演者育成事業の実施回数	173回	180回	—	—	—	200回	—
2	子どもをターゲットとした事業数	16	30	—	—	—	35	—
3 ★	若手演者育成公演の平均入場者数	84人	100人	—	—	—	110人	—
4 ★	横浜にぎわい寄席への学生、子ども入場者数	399人	700人	—	—	—	800人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	子どもたちや学校の声	R 4 実績	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できた
		R 5 達成指標	アンケート等に寄せられた感想等を通して子どもたちが大衆芸能に興味を持った様子を把握できている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	学校から大衆芸能の体験やアウトリーチを望む声が横浜にぎわい座に寄せられている
		R 8 実績	—

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

- ・若手演者研鑽の場である「登竜門シリーズ in のげシャール」を年間通じて開催しました。また、横浜にぎわい寄席や独演会等での若手登用を積極的に取り組みました。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「3 子どもたちや若手演者をはじめとした次世代育成」に記載の取組を行いました。

(4) 使命4 地域のにぎわいを創出する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	5	6	—	—	—	10	—
2 ★	自主事業公演への団体誘致数	27	50	—	—	—	70	—
3 ★	野毛共催事業数 (利用促進委員会)	4	3	—	—	—	5	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	地域団体との意見交換等による現状把握	R 4 実績	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加した
		R 5 達成指標	地域団体との共催事業に関わるミーティングに積極的に参加し地域団体の要望を的確に把握したうえでの連携ができています
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	地域団体のより幅広い各種会合に積極的に参加し、横浜にぎわい座に対する地域のさまざまな期待を把握できている
		R 8 実績	—

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

- ・野毛大道芸をはじめ、野毛地区街づくり会や野毛飲食業協同組合と連携してイベントの開催や広報活動を行いました。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「4 野毛地区のにぎわいづくり等への寄与」に記載の取組を行いました。

(5) 使命5 大衆芸能を切り口としてあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	社会包摂の実現を目指す事業数	84	110	—	—	—	120	—
2 ★	横浜にぎわい寄席へのシニア入場者数	1523人	2000人	—	—	—	3000人	—
3 ★	横浜にぎわい寄席の障がい者料金利用数	369人	300人	—	—	—	700人	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	バリアフリー視点からの来館者の声	R 4 実績	—
		R 5 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	障がい者団体へのインタビュー調査を実施している
		R 8 実績	—
2 ★	バリアフリー設備の維持管理	R 4 実績	機能の適正な維持
		R 5 達成指標	機能の適正な維持
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	機能の適正な維持
		R 8 実績	—

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

- ・にぎわい寄席をあらゆる人を受け入れる基盤として、誰もが楽しめる場として進化させました。具体的には、指定管理業務計画表の「I文化事業」「5 様々な市民等が大衆芸能に触れる機会を創出」に記載の取組を行いました。

(6) 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0	0件	—	—	—	0件	—
2	法定点検等の実施	100	100%	—	—	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	147%	90%	—	—	—	90%	—
4 ★	来館者アンケートの施設快適性評価 /5 点満点	4.2	4.2	—	—	—	4.4	—
5 ★	バリアフリー設備の維持管理	2回	2回	—	—	—	2回	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	施設利用者へのヒアリングを行った
		R 5 達成指標	施設利用者へのアンケート回収時に利用者の協力を得られる場合はヒアリングを行っている
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用者へのヒアリングで得られた要望のうち必要と判断される案件に対し迅速に対応できている
		R 8 実績	—
2 ★	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	光熱水費の上昇について分析を行った。
		R 5 達成指標	年度ごとの仮決算で、予算と差異が生じた管理運営費すべてについて要因分析と善後策検討を行っている。
		R 5 実績	—
		R 6 実績	—
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	第四期指定管理期間の管理運営費の推移の中で変動のある科目について要因を分析し改善案を策定する。
		R 8 実績	—

ウ 使命6を達成するために重点的に取り組む事項

- ・「指定管理者業務の基準」等に示された業務を着実に遺漏なく実施しました。具体的には、指定管理業務計画表の「Ⅲ施設管理」に記載の取組を行いました。

令和4年度 横浜にぎわい座会計 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明□
指定管理料	213,940,000	0	213,940,000	213,940,000	0	横浜市より
利用料金収入	12,000,000	0	12,000,000	13,802,550	-1,802,550	施設利用料、附帯設備利用料
自主事業収入	110,000,000	0	110,000,000	98,746,472	11,253,528	公演チケット収入、講座料収入、貸切公演等の受託料収入ほか
横浜市による運営支援	0	0	0	4,611,000	-4,611,000	物価高騰に伴う支援金
雑入	7,320,000	0	7,320,000	21,030,104	-13,710,104	
自動販売機手数料	270,000	0	270,000	85,686	184,314	自動販売機売上手数料
協賛金・助成金・負担金・寄附金	6,600,000	0	6,600,000	20,662,920	-14,062,920	文化庁補助金1821万円、アウトリーチ負担金、事業協賛金ほか
その他	450,000	0	450,000	281,498	168,502	
収入合計	343,260,000	0	343,260,000	352,130,126	-8,870,126	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明□
人件費	91,451,000	0	91,451,000	98,640,431	-7,189,431	職員、アルバイト、にぎスタ人件費
給与・賃金	72,767,000	0	72,767,000	81,068,798	-8,301,798	館長を含む事務室スタッフ給与、にぎスタ給与
社会保険料	10,962,000	0	10,962,000	10,468,275	493,725	
通勤手当	4,836,000	0	4,836,000	3,746,584	1,089,416	
健康診断費	121,000	0	121,000	74,599	46,401	
勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000	54,000	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額	2,711,000	0	2,711,000	3,228,175	-517,175	
事務費	7,119,000	0	7,119,000	6,662,328	456,672	
旅費	120,000	0	120,000	131,060	-11,060	出張費
消耗品費	1,100,000	0	1,100,000	1,585,529	-485,529	日常消耗品代
印刷製本費	200,000	0	200,000	20,240	179,760	封筒増刷
通信費	950,000	0	950,000	807,552	142,448	電話代、郵送料
使用料及び賃借料	1,922,000	0	1,922,000	1,865,072	56,928	
横浜市への支払分	202,000	0	202,000	86,816	115,184	市目的外使用料(2階グッズ販売、自動販売機)
その他	1,720,000	0	1,720,000	1,778,256	-58,256	コピー機、NHK受信料、ソフトウェアライセンス
備品購入費	200,000	0	200,000	288,080	-88,080	貸出備品等更新
図書購入費	20,000	0	20,000	3,189	16,811	参考図書購入
施設賠償責任保険	54,000	0	54,000	50,990	3,010	
職員等研修費	50,000	0	50,000	0	50,000	
振込手数料	90,000	0	90,000	79,194	10,806	振込手数料
リース料	1,500,000	0	1,500,000	1,469,753	30,247	PC、コピー機、玄関マット、AED、携帯電話抑止装置リース
手数料	200,000	0	200,000	134,292	65,708	産廃手数料等
地域協力費	50,000	0	50,000	30,600	19,400	町内会費
施設広報費	380,000	0	380,000	33,000	347,000	施設広告掲載、施設販促物作成
雑支出	283,000	0	283,000	163,777	119,223	真打昇進披露、式典、供花等
事業費	100,300,000	0	100,300,000	97,771,508	2,528,492	
自主事業費	100,300,000	0	100,300,000	97,771,508	2,528,492	出演料、舞台技術費、広報物制作費、チケット販売手数料等
管理費	106,956,000	0	106,956,000	108,957,981	-2,001,981	
光熱水費	18,000,000	0	18,000,000	24,737,051	-6,737,051	専有部分光熱水費
電気料金	13,000,000	0	13,000,000	18,703,882	-5,703,882	
ガス料金	3,350,000	0	3,350,000	4,730,876	-1,380,876	
水道料金	1,650,000	0	1,650,000	1,302,293	347,707	
清掃費	11,000,000	0	11,000,000	9,888,230	1,111,770	専有部分清掃費
修繕費	1,700,000	0	1,700,000	2,494,800	-794,800	設備、機器修繕
設備保全費	58,256,000	0	58,256,000	53,843,900	4,412,100	
専有部分管理費	43,226,000	0	43,226,000	43,410,400	-184,400	専有部の設備管理費、警備費、機械警備費、清掃費等
舞台技術費	15,030,000	0	15,030,000	10,433,500	4,596,500	ホール等日常管理業務等
共益費	18,000,000	0	18,000,000	17,994,000	6,000	ビル共用部管理費
公租公課	12,187,000	0	12,187,000	10,697,764	1,489,236	
消費税	12,097,000	0	12,097,000	10,671,600	1,425,400	
印紙税	70,000	0	70,000	5,775	64,225	
その他	20,000	0	20,000	20,389	-389	法人税
事務経費	25,247,000	0	25,247,000	25,247,000	0	
本部分	25,247,000	0	25,247,000	25,247,000	0	事務局積算
支出合計	343,260,000	0	343,260,000	347,977,012	-4,717,012	
差引	0	0	0	4,153,114	-4,153,114	人件費は職員の人事異動による増加分5,068,000を含みます。 人件費要素を考慮しない収支差額は9,221,114です。